島本町文化財調査報告書

第 4 集

御所ノ平遺跡範囲確認調査概要報告

平成 15 年 3 月

島本町教育委員会

島本町文化財調査報告書

第 4 集

御所ノ平遺跡範囲確認調査概要報告

平成 15 年 3 月

島本町教育委員会

序　　文

島本町には、先人たちが大切に遺してきた数多くの文化財があり、これらの文化財を後世に正しく伝えることは現代を生きる我々の責務であります。教育委員会では埋蔵文化財についてもその保護と周知を行うとともに、未だ遺跡の確認されていない地域での調査も実施し、新たな文化財の発見にも努めております。

本書は、東大寺地区の埋蔵文化財の状況を把握することを目的に、国庫補助事業として実施した遺跡範囲確認調査の成果を報告するものであります。

調査にあたりましては、多大なご指導ご協力を賜りました、大阪府教育委員会をはじめとする関係諸機関の皆様には、深く感謝しお礼申しあげますとともに、本町の今後の文化財保護行政に対し、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげます。

平成15年3月

島本町教育委員会

教育長　日高久和

例　　言

1．本書は、平成14年度国庫補助事業として、大阪府教育委員会事務局文化財保護課の指導のもと、島本町教育委員会が実施した遺跡範囲確認調査における概要報告書である。

2．調査は、島本町教育委員会事務局社会教育課野口尚志を担当者として、平成15年1月8日に着手し、平成15年3月31日をもって終了した。

3．本書に用いた標高は、東京湾平均海水面（T．P．）からのプラス値である。また、方位は座標北を基準とする。

4．本書の執筆はⅡ.2.出土遺物を久保直子が行い、それ以外は野口が行った。また、編集は野口、久保、坂根　瞬が行った。

5．現地調査及び整理作業においては関係各機関ならびに、下記の方々からは貴重なご指導ご教示を賜った。記してここに感謝の意を表します。（敬称略、順不同）

福田英人（大阪府教育委員会事務局文化財保護課）、久保哲正（財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）、冨成哲也（高槻市教育委員会事務局文化財課）、岩崎　誠・上野恵己（財団法人長岡京市埋蔵文化財センター）

6．現地調査及び整理作業にあたっては、下記の調査員及び調査補助員の参加を得た。（順不同）

〔調　査　員〕　　久保直子、坂根　瞬

〔調査補助員〕　　河村和代、吉村光子

目　　次

序　文
例　言
目　次
Ⅰ．周辺の環境 ---------- 1
Ⅱ．調査の概要 ---------- 4
　　１．検出遺構 ---------- 4
　　２．出土遺物 ---------- 8
Ⅲ．まとめ ---------- 11

挿図目次

第１図　島本町文化財分布図 ---------- 1
第２図　調査地位置図（1 / 5000） ---------- 2
第３図　調査地遠景 ---------- 3
第４図　竪穴住居跡ＳＨ０１平面図・断面図 ---------- 4
第５図　調査地平面図・断面図 ---------- 5・6
第６図　竪穴住居跡ＳＨ０１出土遺物 ---------- 9
第７図　包含層出土石器 ---------- 10
第８図　鈴谷瓦窯跡２号窯 ---------- 11
第９図　鈴谷瓦窯跡出土瓦実測図 ---------- 11

図版目次

図版１　調査地全景
　　調査地全景（南から）
　　調査地全景（西から）
図版２　竪穴住居跡
　　竪穴住居跡ＳＨ０１（南から）

竪穴住居跡ＳＨ０１内竈（西から）

図版３　出土遺物（竪穴住居跡）

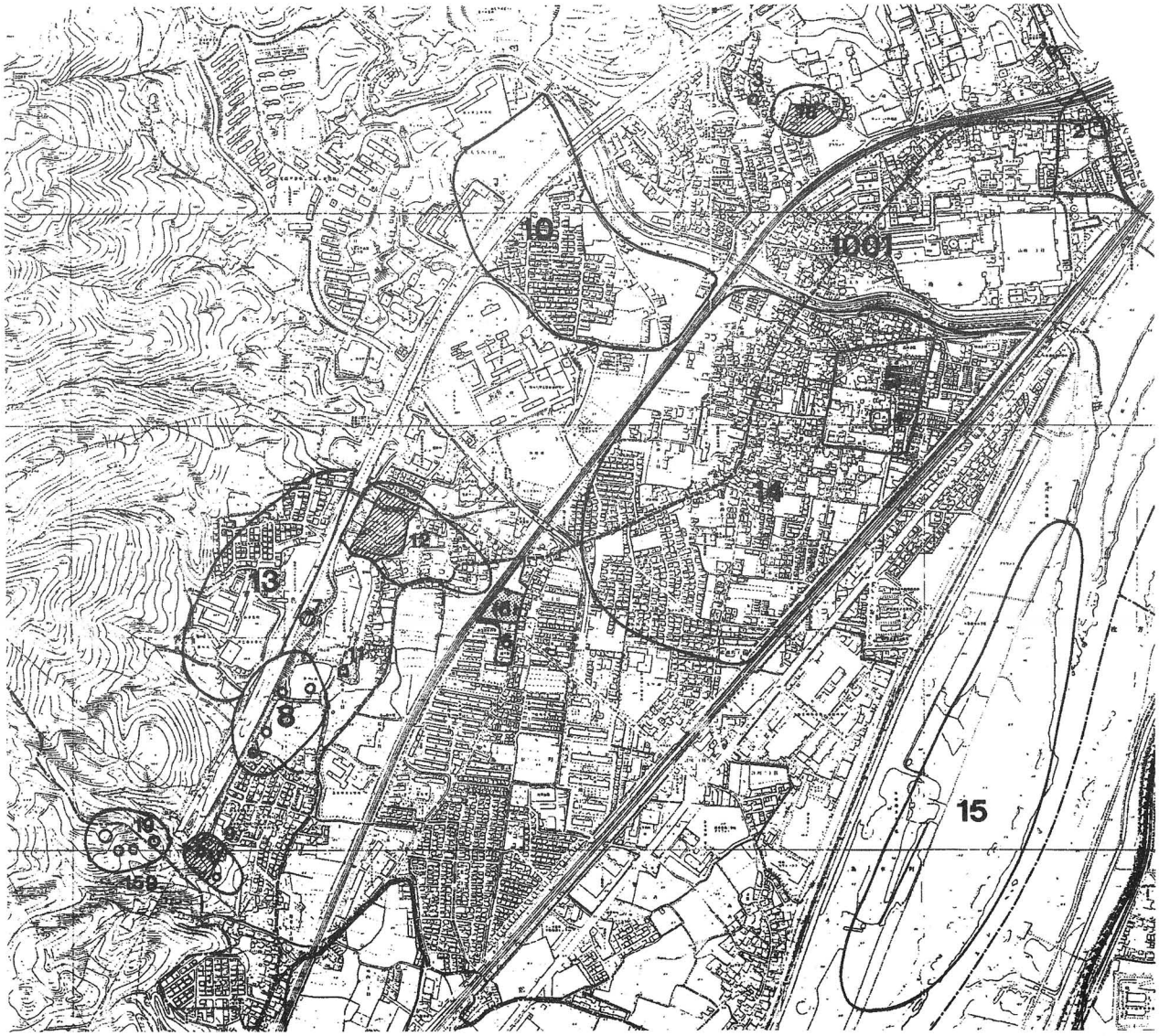
図版４　出土遺物（竪穴住居跡）

図版５　出土遺物（竪穴住居跡・包含層）

Ⅰ．周辺の環境

地理的環境

島本町は大阪府の北東端にあり、京都府との府境に位置する。面積は16.78㎢である。北は京都市西京区・長岡京市、北東は大山崎町、東は八幡市、東南は枚方市、西は高槻市にそれぞれ隣接する。町域の東南部は、京都盆地の南西より流れ出た桂川・宇治川・木津川の三川が合流して淀川となり南流する。地形的には町域の北西部３分の２が丹波高原の延長である西山山塊と、そこから突き出た天王山山地であり、東南部３分の１が淀川に接した平野部となっている。標高は最



第１図　島本町文化財分布図（『大阪府文化財分布図 2001 年』大阪府教育委員会から）

1. 山崎古墳　2.〔府指〕有文 関大明神社　3. 鈴谷瓦窯跡　4.〔国〕重文 水無瀬神宮茶室 客殿　5. 水無瀬離宮跡　6. 桜井駅跡　(6)〔国〕史 桜井駅跡（楠木正成伝説地）　7. 伝侍宵小侍従墓　8. 越谷遺跡　9. 源吾山遺跡　10. 水無瀬荘跡　11. 御所池瓦窯跡　12. 桜井遺跡　13. 桜井御所跡　14. 広瀬遺跡　15. 広瀬南遺跡　18. 山崎西遺跡　19. 神内古墳群　20. 山崎東遺跡　1001. 西国街道

低が淀川で９ｍ、最高が釈迦岳の631ｍを測る。また、淀川をはさみ、南方から生駒山地の延長である男山丘陵が張り出しているため、大阪平野と京都盆地はわずか１㎞ほどの山崎狭隘部だけで接続することとなる。

本調査地は、天王山から延びた尾根筋の上に立地し、東に鈴谷川、西に滝谷川が流れ、これに挟まれた段丘上に位置する。標高は27ｍを測る。

歴史的環境

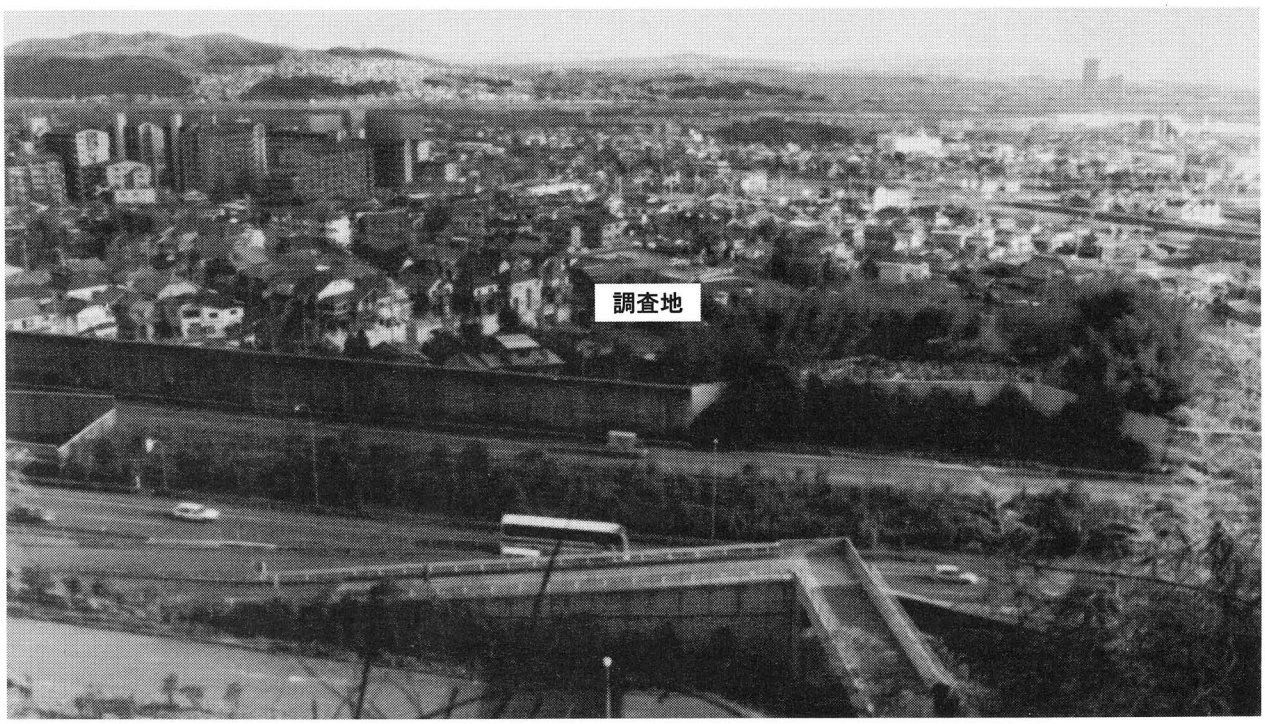
現在、町内には17ヶ所の遺跡が埋蔵文化財包蔵地として周知されている。このまちに人々が生

第２図　調査地位置図（1 / 5000）

活しはじめたのは、山崎西遺跡から国府型ナイフ型石器が出土したことから旧石器時代の終わりごろと考えられ、越谷遺跡ではそれに続く縄文時代・弥生時代の土器類が出土している。古墳時代になると越谷遺跡・源吾山遺跡・神内古墳群からは古墳の副葬品と思われる土器や鉄器が出土しており、桜井地区の山麓にはいくつかの古墳が存在したと思われる。８世紀に入ると天王山の山麓東大寺地区に鈴谷瓦窯が営まれ、水無瀬川を挟んだ対岸には奈良東大寺の荘園「水無瀬荘」が置かれた。長岡京・平安京に遷都されると、淀川の山崎津は表玄関として栄え、『土佐日記』や『更級日記』にその賑わいをみることができる。鎌倉時代には後鳥羽上皇が離宮を造営し、この地をこよなく愛したといわれ、広瀬遺跡からは同時期の遺物が多数出土している。

今回の調査地周辺には、鈴谷川を挟んだ隣りの段丘斜面に鈴谷瓦窯跡があり、北東に150m離れている。鈴谷瓦窯跡は昭和29年11月に町営鈴谷住宅の建設に伴い、実施された造成工事中に発見された２基の登窯である。発見当時から、その立地が対岸の奈良東大寺の荘園「水無瀬荘」に近いことなどから東大寺造営に関わった瓦窯であったと想定されてきたが、その後、窯の構造と出土した瓦の調査により東大寺建立より50年は早い７世紀末から８世紀初め頃の操業であることが判明している。また、東200mには旧石器が発見された山崎西遺跡も位置している。

このように、調査地周辺にはいくつかの遺跡が確認されているものの、水無瀬川左岸の東大寺地区は埋蔵文化財包蔵地外であったこともあり、同地域についての考古学的データの蓄積がされていなかった。そこで、島本町教育委員会では東大寺地区の遺跡の所在や範囲・内容の確認を目的に平成14年度の国庫補助事業として本調査を実施した。



第３図　調査地遠景（男山・樟葉方面）

Ⅱ．調査の概要

1．検出遺構

今回の調査地の基本層序は次のとおりである。基本層序は、西壁断面及び断割り西壁断面を基準としている。

第１層　盛土。本調査地は調査前まで町立第一保育所であったが、本層は園庭の用土とそれに伴う排水用に敷かれたと思われるコークス状の土。

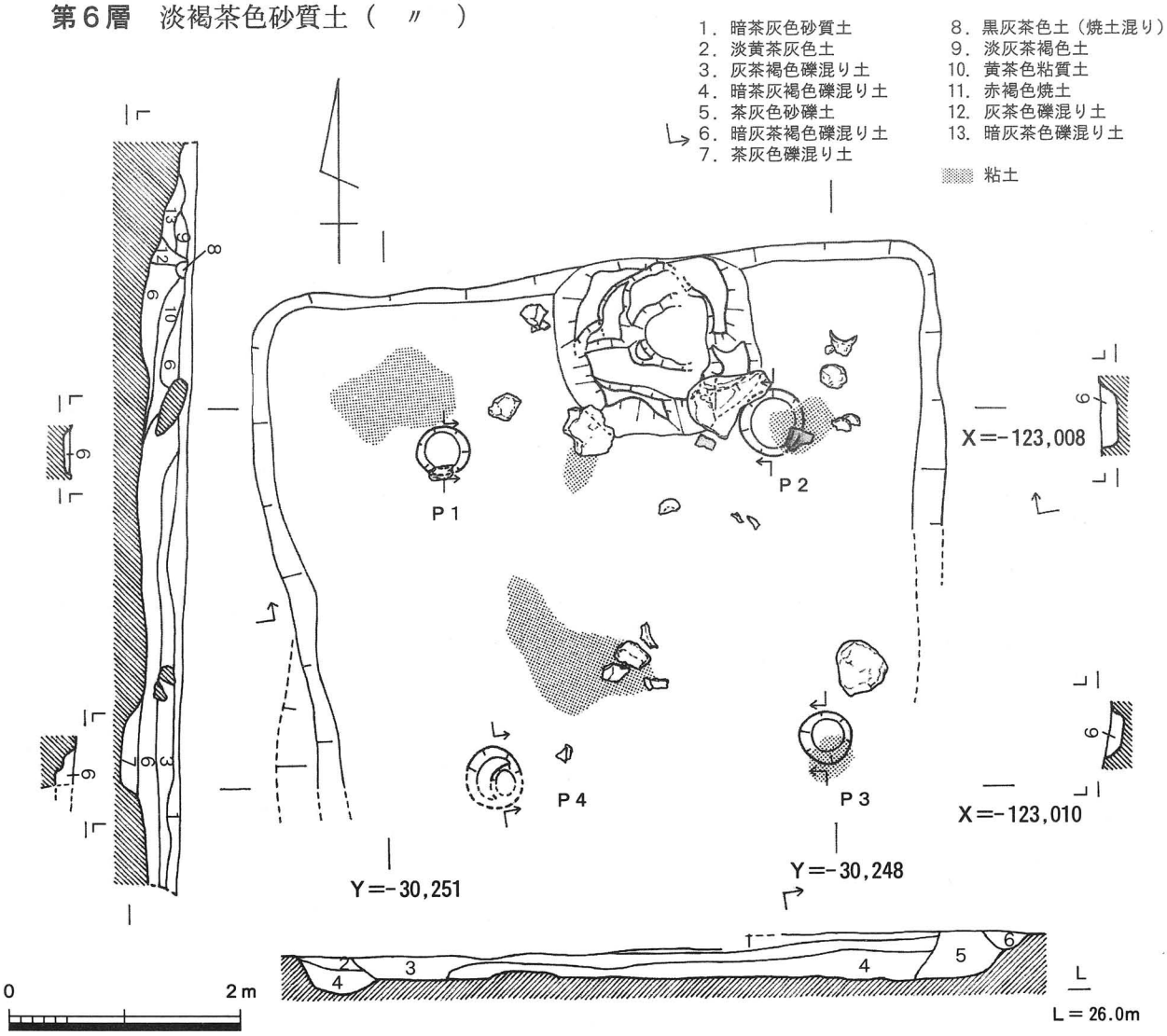
第２層　明黄灰茶色土（近代の耕作土）

第３層　淡黒茶色土

第４層　茶灰色砂礫土

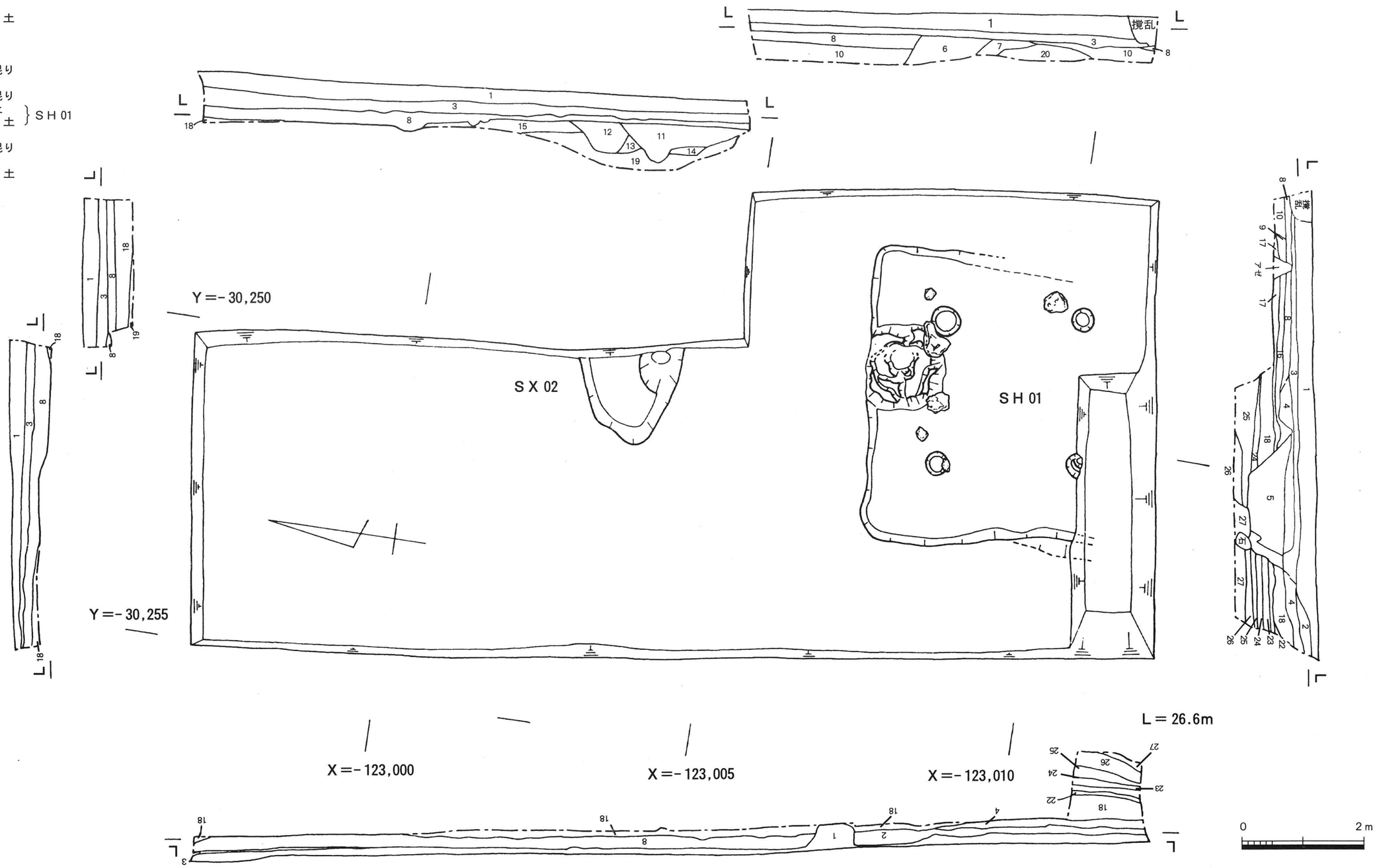
第５層　褐茶色粘質土（ 地山 ）

第６層　淡褐茶色砂質土（　〃　）



第４図　竪穴住居跡ＳＨ０１・平面図・断面図

1．盛土
2．明黄灰茶色土
3．淡黒茶色土
4．明褐灰茶色土
5．明褐灰茶色土（黒茶色砂礫土混り）
6．赤茶色礫混り土
7．明茶黄色粘質土
8．暗茶灰色砂質土
9．明灰茶褐色礫混り土
10．茶褐色礫混り土
11．淡茶色砂質土
12．暗茶色砂質土
13．茶黄色粘質土礫混り
14．茶黄色粘質土
15．淡茶色砂質土礫混り
16．灰茶褐色礫混り土 } ＳＨ 01
17．暗灰茶褐色礫混り土 } ＳＨ 01
18．茶灰色砂礫土
19．褐茶色粘質土礫混り
20．明黄茶色粘質土
21．明灰茶褐色礫混り土
22．褐茶色粘質土
23．淡褐茶色砂質土
24．明褐茶色粘質土
25．褐茶色砂質土
26．淡褐茶色粘質土
27．褐茶色砂礫



第５図　調査地平面図・断面図

第７層　明褐茶色粘質土（　〃　）

第８層　褐茶色砂質土（　〃　）

第９層　淡褐茶色粘質土（　〃　）

第10層　褐茶色砂礫（　〃　）

なお、トレンチ南東にて第３層と竪穴住居跡ＳＨ０１埋土の間に見られる茶褐色礫混り土は土石流等により堆積した層と考えられ、弥生時代の横型削器が出土しており本調査地より高いところに弥生時代の遺跡の存在が推測される。

竪穴住居跡ＳＨ０１

調査地南辺にて検出した東西4.5m南北検出長3.3mを測る方形を呈する竪穴住居跡。深さは約25cmが遺存する。北壁中央やや東に偏って、東西1.3m南北1.2mの馬蹄形を呈する竈が築かれている。竈の上部には壊れた竈の壁体が崩れ落ちていた。煙道は不明。周辺部には土師器甕や片口鉢の破片が散乱していた。４ヶ所の主柱穴は住居跡のほぼ中央にあり柱間は東西・南北とも2.2ｍを測る。

本住居跡で注目されるのは、住居跡内の５ヶ所で白色粘土塊が検出されたことと、平瓦片が２枚出土したことである。本来竪穴住居からは出土しない瓦が出土したことと粘土塊が見られること、また鈴谷瓦窯跡に隣接することより本住居跡が瓦製作に関係するものである可能性も考えられる。

落ち込み状遺構ＳＸ０２

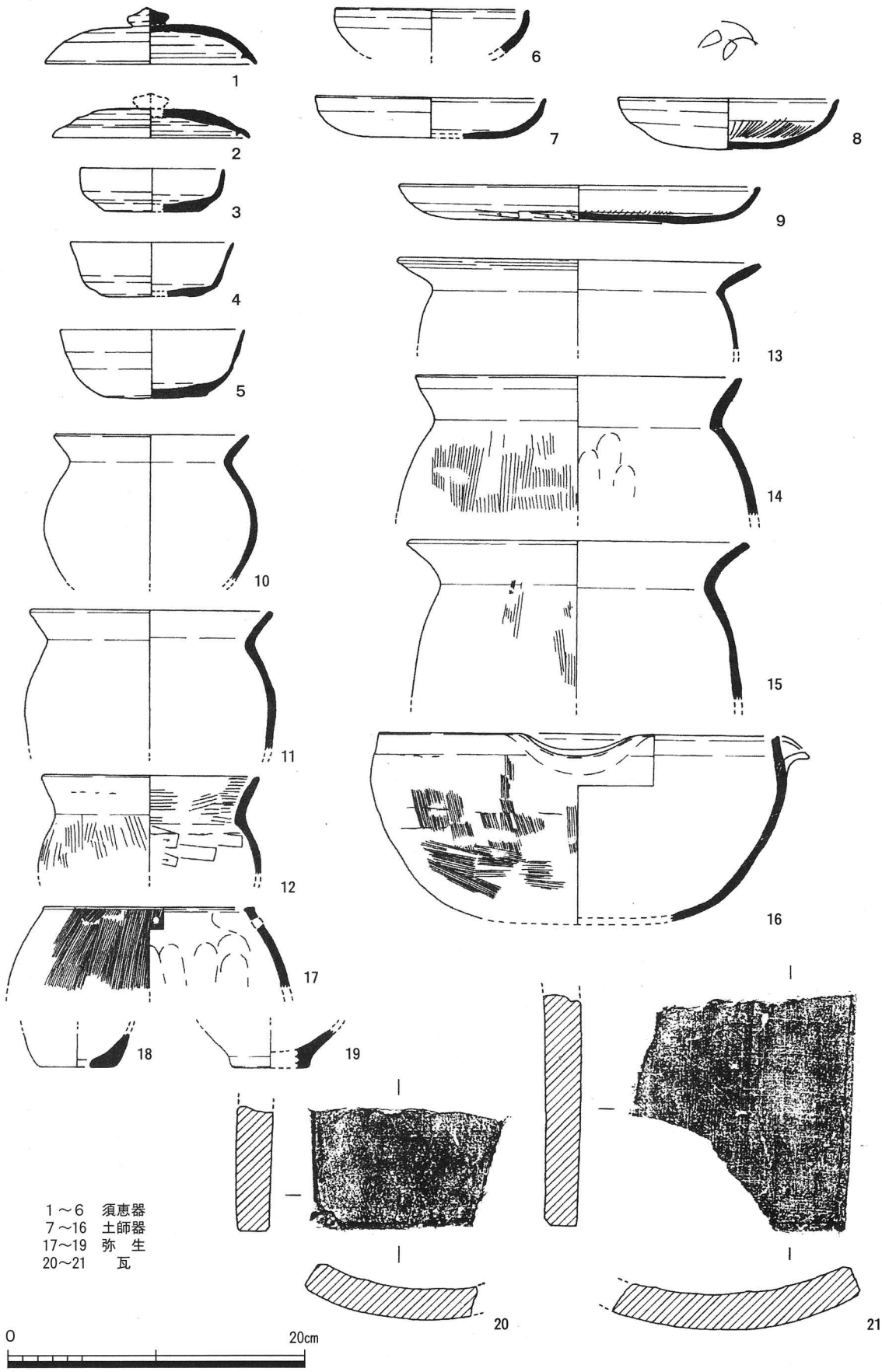
トレンチ中央東壁際にて半分検出、東方向に広がる。検出長が東西1.4ｍ、南北1.7ｍを測る。出土遺物もなく時期・用途については不明。

２．出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、コンテナに約２箱であった。竪穴住居跡ＳＨ０１内で出土したものがほとんどで、少量にもかかわらず図化できるものが比較的多かった。器種としては、食器類としての杯・皿類、煮沸用具である甕・鉢類、そして瓦が出土している。中でも特に甕の破片が多かった。時期は７世紀末～８世紀初頭のものが大半を占めている。また、包含層からは石器が１点出土している。

ＳＨ０１

１・２は須恵器の杯Ｇ蓋。１は口径 14.4cm、器高 3.8cmで、身受けの返りをもつ。天井部は丸みを持ち、ヘラオコシの後ヘラケズリを行う。頂部に扁平な宝珠形のつまみを貼り付ける。２は口径 13.4cm、残存器高 2.0cmで、身受けの返りをもつ。１よりはやや扁平な天井部を持つ。頂部につまみの剥離痕がみられる。３・４・５は須恵器の杯Ｇ身。３は口径 9.5cm、器高 3.0cm。小ぶりで内湾気味に立ち上がる。底部はヘラオコシの後ヘラケズリを行う。４は口径 10.1cm、器高 3.7cm。５は口径 12.5cm、器高 4.7cm。いずれも焼成が甘く底部は扁平でヘラオコシ痕をそのまま残す。口縁は直線的に立ち上がる。器壁が非常に薄い。６は須恵器の杯と考えた。口縁は内湾し端部は外方に折れる。蓋の可能性も残す。７は土師器の杯Ａで、口径 16.0cm、器高 2.8cm。形がいびつなため、もう少し深くなる可能性もある。摩滅のため調整の詳細は不明であるが、口縁部ヨコナデ、外面不調整か。口縁端部は内傾する面を持つ。８は土師器の杯Ａ。口径 15.0cm、器高 3.5cmで口縁端部は短く外方に折れる。底部外面は不調整、内面は放射暗文と螺旋暗文を施す。９は土師器の皿Ａ。口径は 24.1cm、口縁は内面に肥厚する。底部外面は丁寧にヘラケズリを行い口縁の内・外面はヨコナデを行う。内面には放射暗文を施す。８・９はやや砂質で橙褐色を呈する特徴的な胎土を有し、他の場所からの搬入品と見られるものである。10～15 は土師器の甕。10 は口径 12.9cm、11 は口径 16.0cm。底部が丸くなる形のものと思われる。摩滅が激しく調整は不明。12 は口径 14.5cm、体部外面に縦方向のハケを残し、内面は横方向のケズリ、口縁内面は横方向のハケを施している。13 は口径 24.3cm、調整は摩滅が激しく不明。14 は口径 21.9cm、体部外面は縦方向のハケを施し、内面はケズリを行う。15 は口径 22.4cm、体部外面にわずかにハケを残す。16 は土師器の片口の鉢で、口径 27.0cm　、残存器高 12.7cm　、残存率が全体の１/３というところから、口径は口縁部の２ケ所での平均値をとり図化した。体部は内湾気味で口縁端部はヨコナデを行う。巾８cmで外方に折り曲げて片口としている。体部外面の上半分は縦方向のハケを行い、下半分は横方向のハケで調整を行っているものの外面に粘土紐痕と凹凸を残している。内面はナデ調整。焼成はやや甘い。17・18・19 は弥生土器。住居跡埋土の最上層から出土している。17 は無頸壺で口径 14.3cm。口縁端部の穿孔は１ケ所しか確認できなかったが２ケ所で１対になると考えられる。外面は縦方向のハケを丁寧に施し、内面はナデ調整。18 は有孔の鉢か。19 は甕の底部、

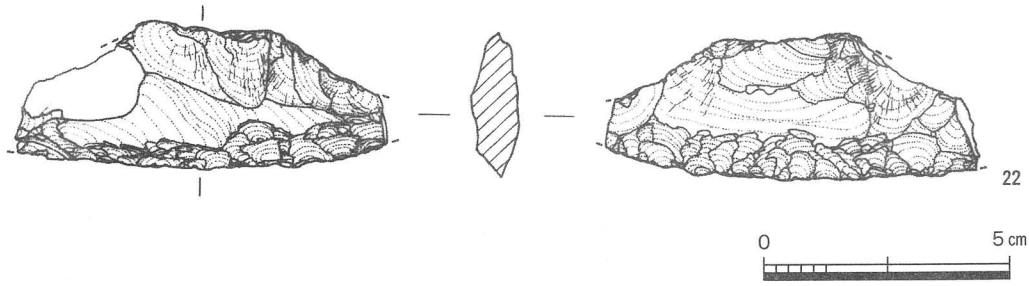


第６図　竪穴住居跡ＳＨ０１出土遺物

調整は摩滅のため不明である。20・21は平瓦。20はカマド内部から出土、21もその周辺から出土している。いずれも布目を残し、面取りも丁寧に行われている。凸面にはナデの痕跡を残す。胎土は粗い砂質を呈し堅い須恵質に焼き上がっている。２点とも以前に鈴谷瓦窯跡から出土したものに酷似している。

包含層

今回包含層（茶褐色礫混り土）からは、サヌカイト製の石器22が１点出土しただけである。刃部に調整剥離が見られるため、横型削器と思われる。形状と風化の度合いから弥生時代の石器と考えられる。



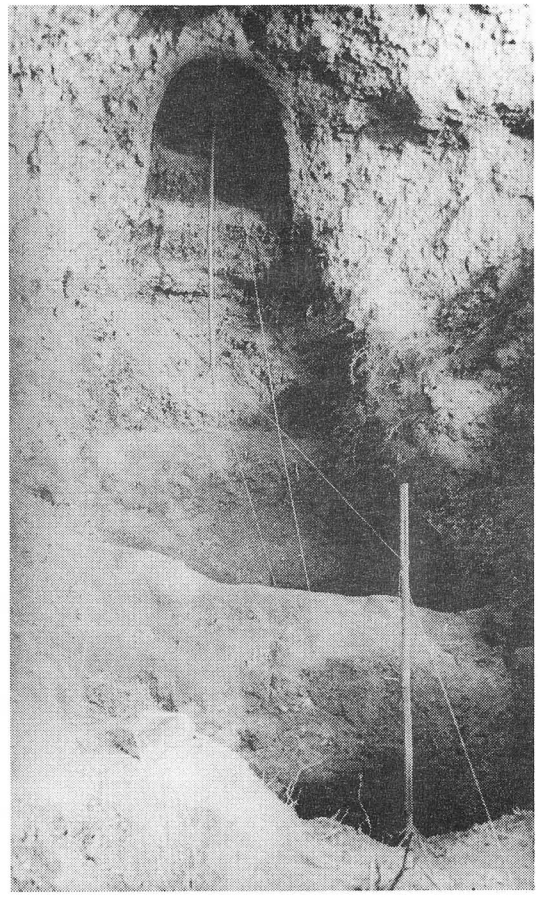
第７図　包含層出土石器

Ⅲ．まとめ

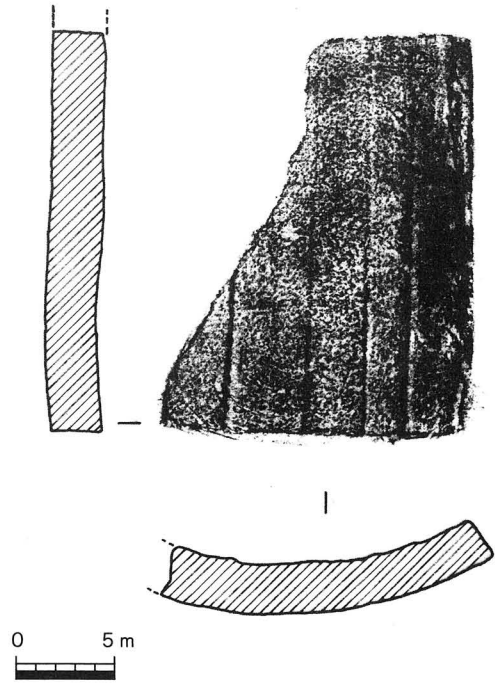
本調査地周辺は、町営住宅（鈴谷住宅、滝谷住宅）の建替移転に伴い、旧町立第一保育所跡地も含めた町有地の活用が計画されるなど、近い将来開発されることが想定される。そのため、埋蔵文化財包蔵地として周知されていない当該地の遺跡の有無、内容・範囲の確認を早急に行い、今後の開発行為に対し、適切な文化財保護についての指導が行えるよう、情報を得る必要性から遺跡範囲確認調査を実施することとした。

今回の調査では、７世紀末～８世紀初頭の竪穴住居跡が１棟検出された。島本町内の考古学的調査においては最も古い住居の跡となる。この竪穴住居跡で注目されることは、住居跡内で瓦が出土したことである。本来竪穴住居跡からは、瓦は出土することはないものである。しかし、今回２枚の平瓦が出土したのである。そして、その瓦は昭和29年に隣接する鈴谷瓦窯跡から出土した平瓦と焼成や布目・面取りなどの調整がよく似ている。また、鈴谷瓦窯がその窯の形状や、出土瓦から８世紀初頭のものと考えられていることも、今回検出された竪穴住居跡の年代と一致する。これらのことから、この竪穴住居跡では、鈴谷瓦窯において瓦づくりに関わった人々が生活していたのではないかと推測される。さらに、住居跡内には数箇所の粘土の塊が見られた。これらは厚さ数センチから十数センチ程度のもので、もしこれが瓦製作の材料であったならば、この住居は作業場（工房）であったことになる。しかし、通常の生活を行う住居にするには、出土する遺物の量が少ないといったぐらいで、作業場とするだけの資料は得られておらず、現時点ではその判断は避けるものとする。

鈴谷瓦窯跡は前述したように、昭和29年に町営鈴谷



第８図　鈴谷瓦窯跡２号窯



第９図　鈴谷瓦窯跡出土瓦実測図

住宅建設に伴う造成工事中に、偶然発見された２基の瓦を焼成した窖窯である。１号窯は検出長が5.6m、幅1.5ｍ、斜度33°を測る。前庭部や焚口は造成により削平されている。煙道は不明。２号窯は検出長5.3ｍ、幅1.5m、斜度40°を測る。前庭部は不明であるが、焚口には丸瓦３枚が窯と平行に並べられており、燃焼室と焼成室の間には平瓦が積まれていた。煙道も確認されている。現在、同瓦窯に関する資料は実測図と出土瓦４枚、写真数点が残されているが、正確な位置については不明である。

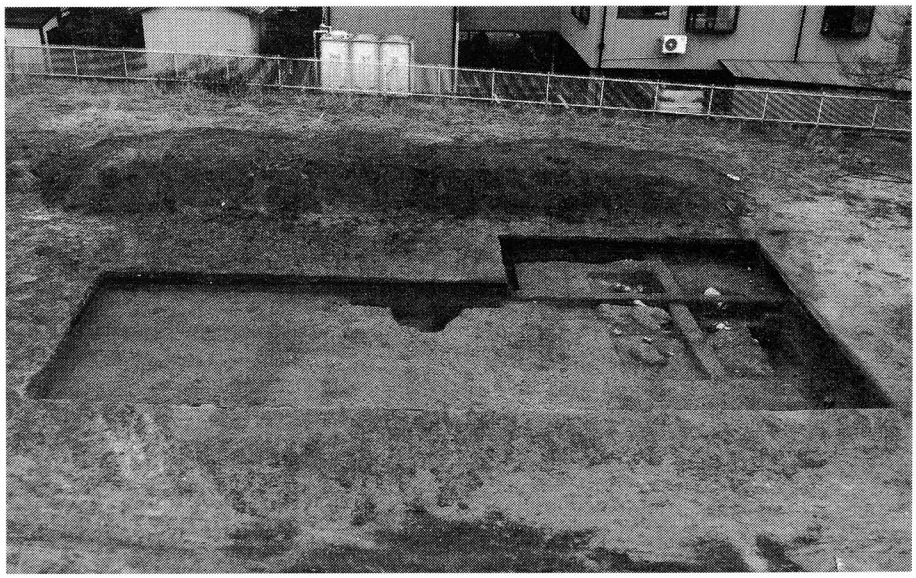
他の瓦窯跡の例を考えれば、他にも窯が存在したことも十分想定される。本調査地は、南流する鈴谷川と滝谷川に挟まれた段丘と、両河川沿いの段丘が半島状に３つ天王山から延びており、その中央の段丘上に今回の調査地が位置する。そして、鈴谷瓦窯跡は東を流れる鈴谷川右岸段丘の東側斜面に存在したと考えられ、本調査地の東隣の段丘に位置することとなる。これらの地形から考え他に窯が存在すると想定できるのは、本調査地の位置する段丘の鈴谷川側である東側斜面は緩やかな傾斜であり、登窯を構築するには向かないと思われ、むしろ調査地の西を流れる滝谷川の両岸の方が急傾斜で窯の構築に向いていると思われる。また、鈴谷瓦窯跡のある段丘の西側斜面も傾斜が急で窯の存在の可能性がある。しかし、現段階で当該地域の瓦窯跡を語るには情報がまだまだ少なく、今後もこの地域での遺跡範囲確認調査を継続して行い、データの蓄積をしていくことが大切と考える。

また、今回の調査では石器（横型削器）が１点と弥生土器片３点が確認された。これらは竪穴住居跡より上の包含層や竪穴住居跡の埋土の最上層から出土している。これらのことより、本調査地より高地（北方面）に弥生時代の生活痕跡があったことが想定される。ともあれ、今回の調査だけで当該地域の遺跡の範囲や内容をつかむことはできないが、継続的な調査を行い水瀬川右岸の東大寺地区の文化財保護に努めていきたい。

図　　版

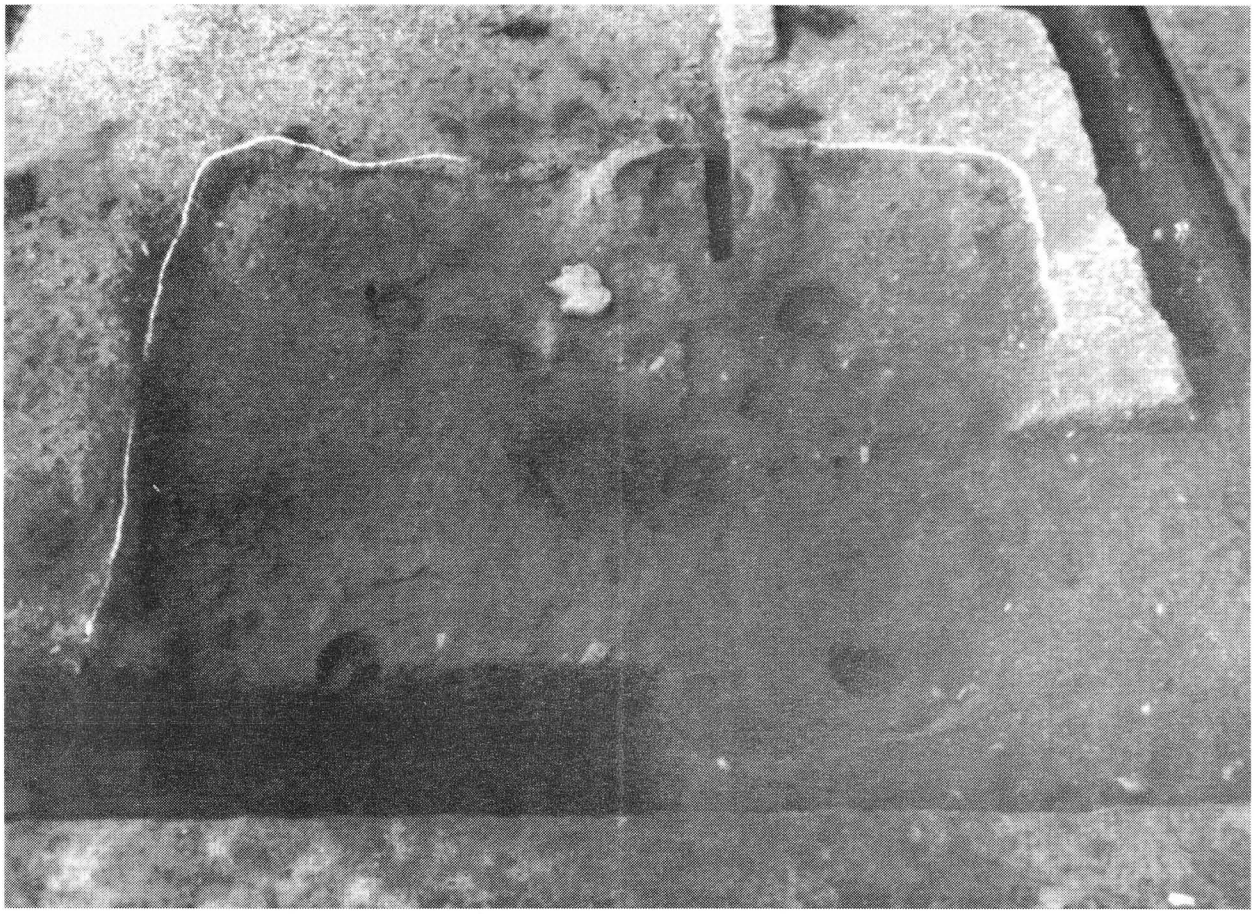
図版1　調査地全景

調査区全景（南から）

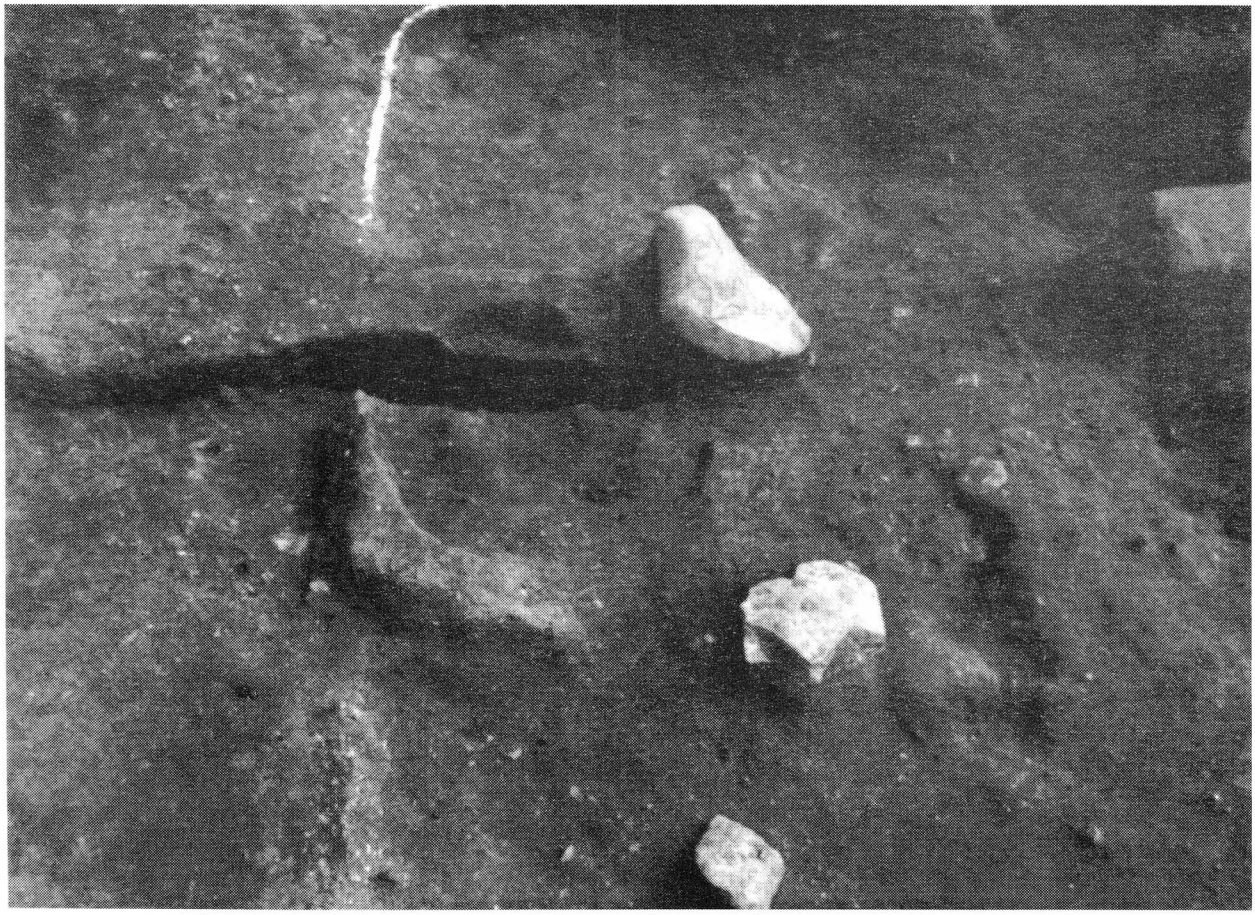


調査区全景（西から）

図版2　竪穴住居跡

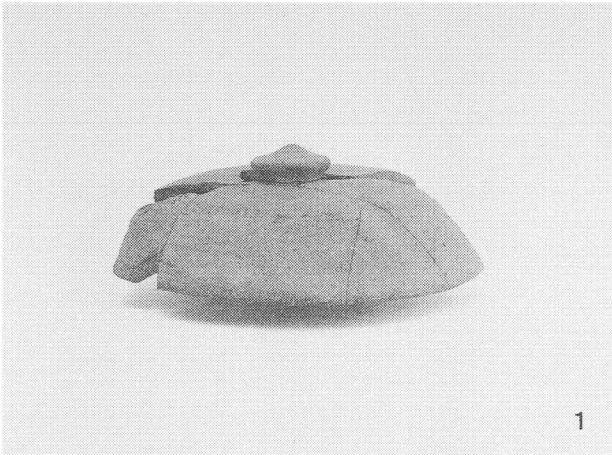


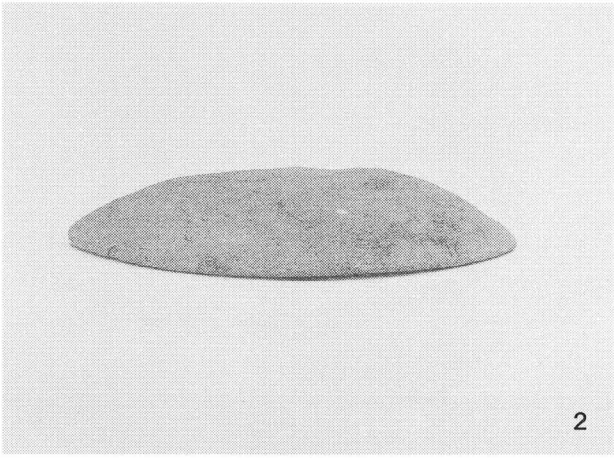
竪穴住居跡ＳＨ０１（南から）

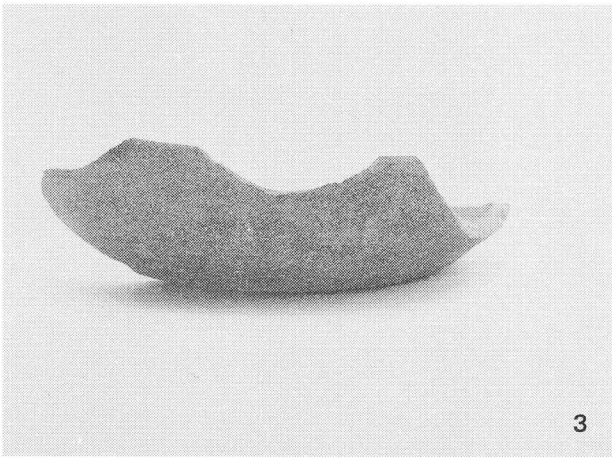


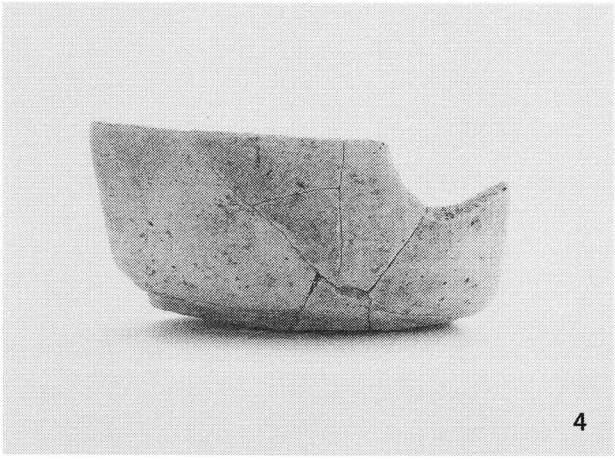
竪穴住居跡ＳＨ０１内竈（西から）

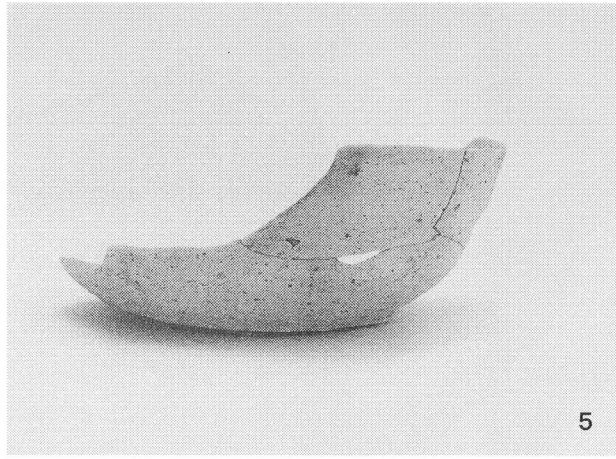
図版3　出土遺物（竪穴住居跡）

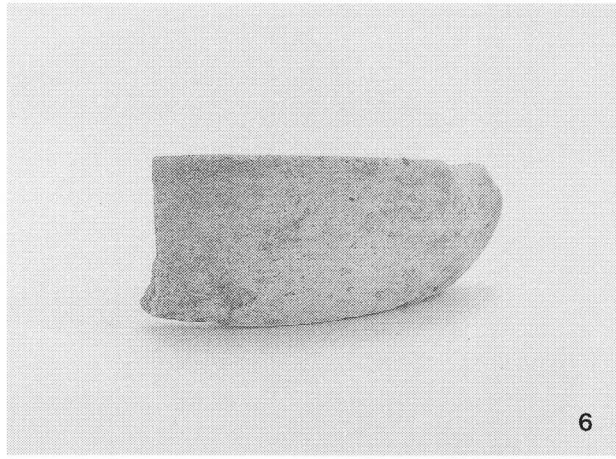

1

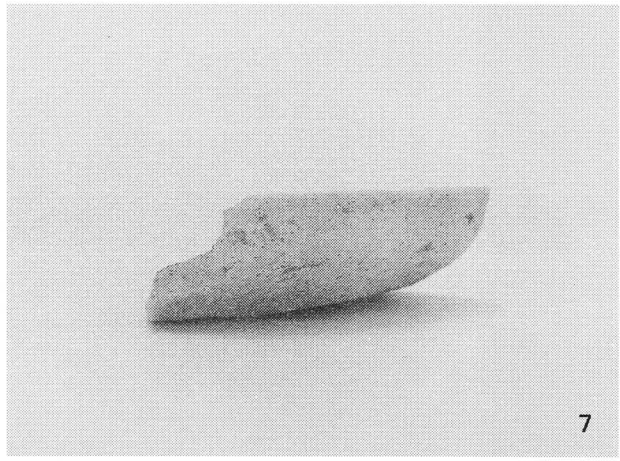

2

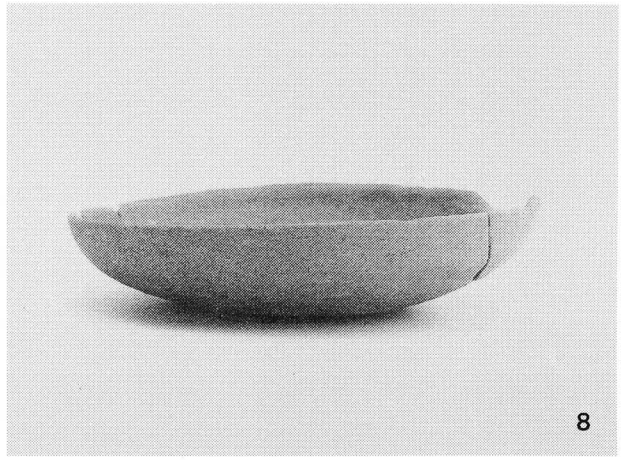

3


4

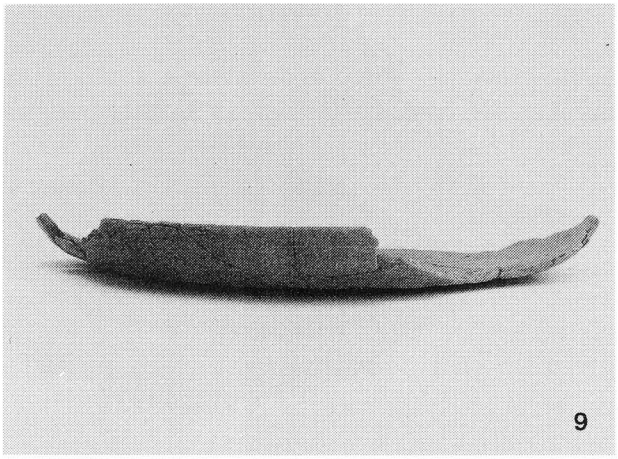

5

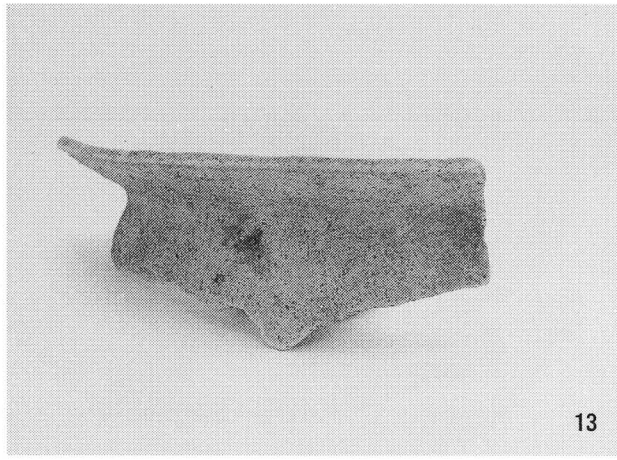

6

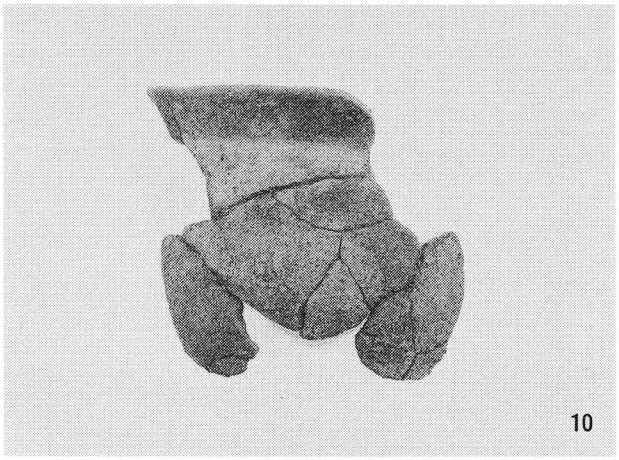

7

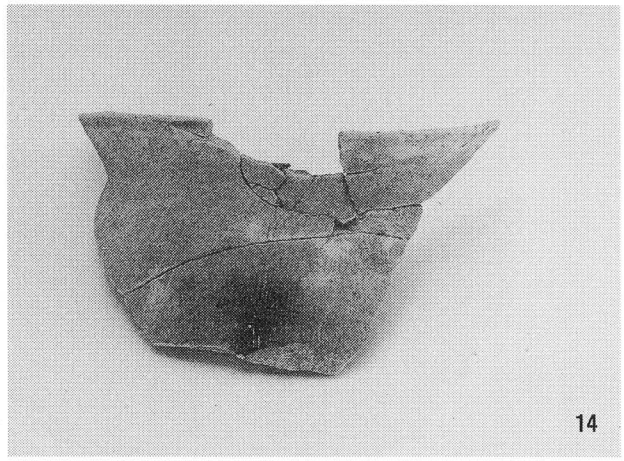

8

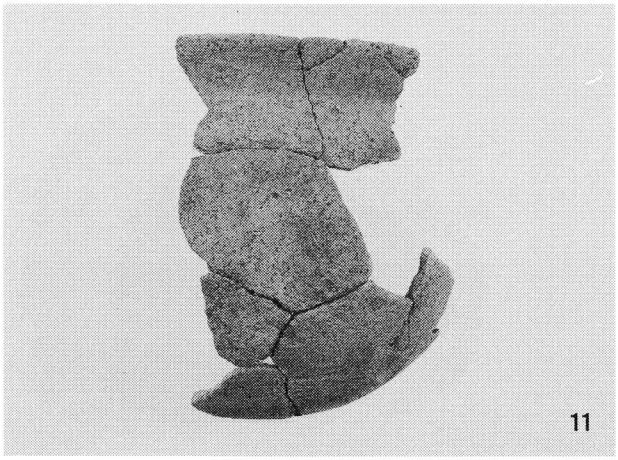
図版4　出土遺物（石組み遺構）

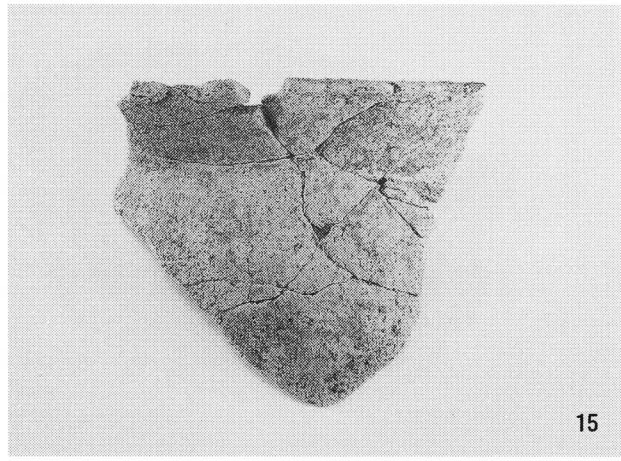

9

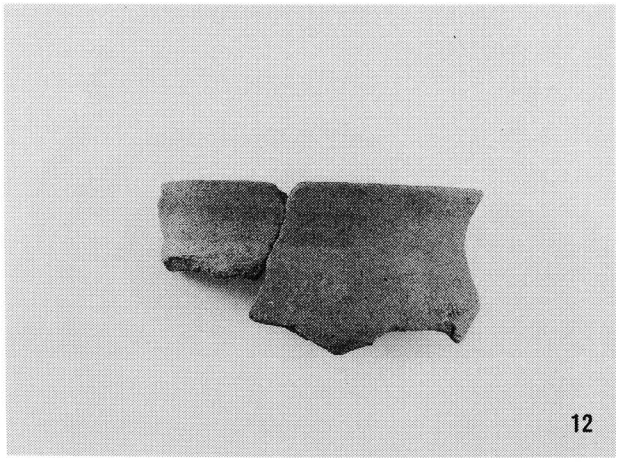

13

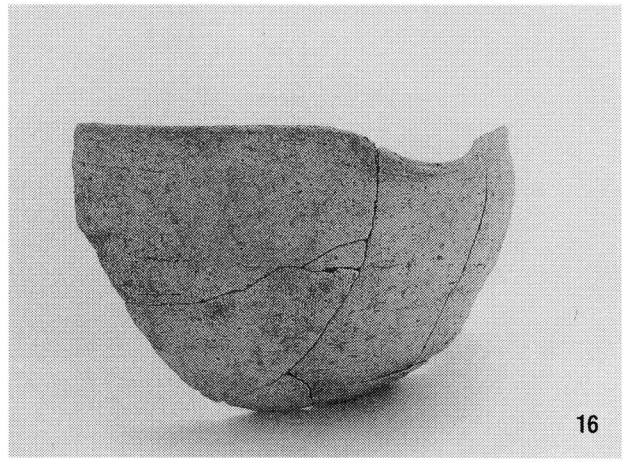

10


14

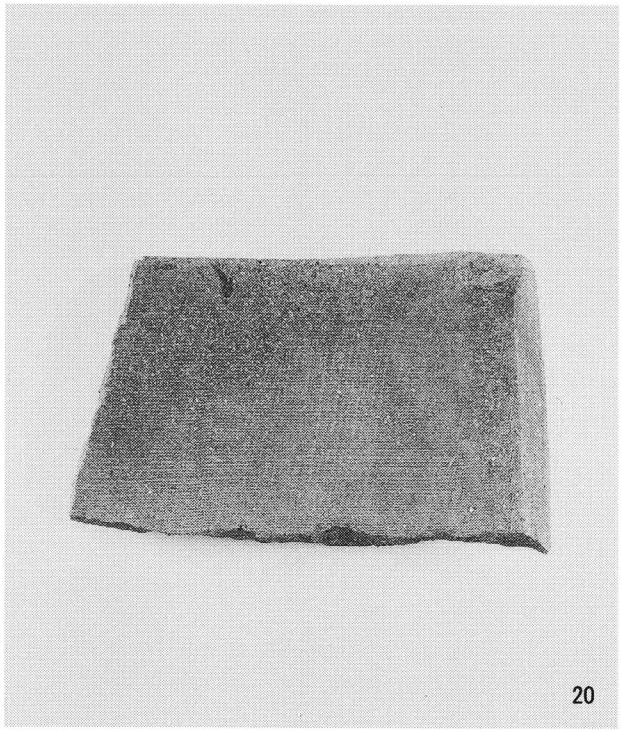

11

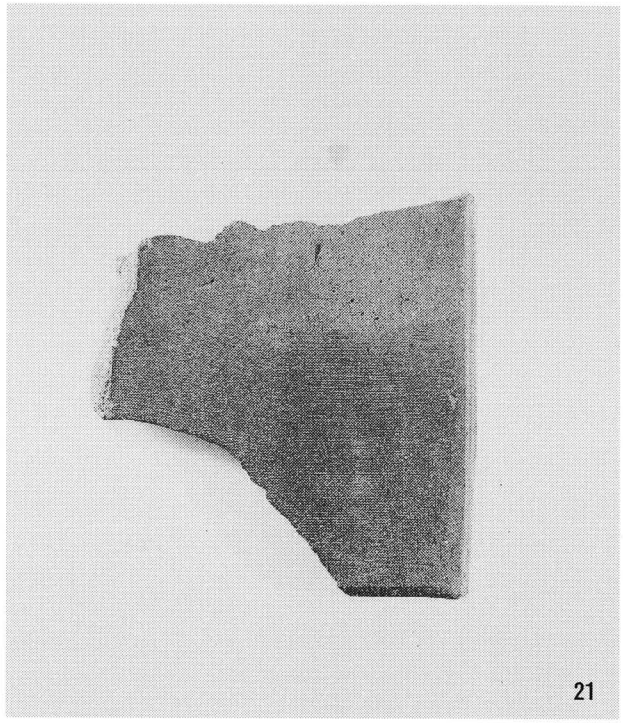

15

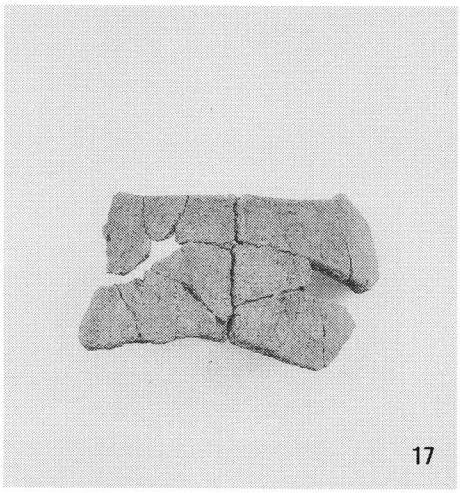

12

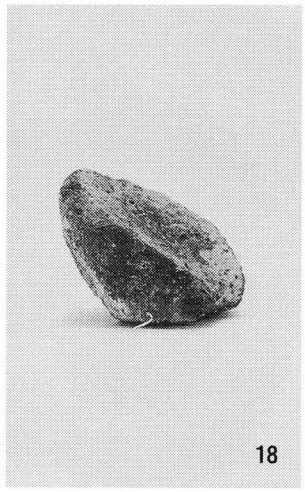

16

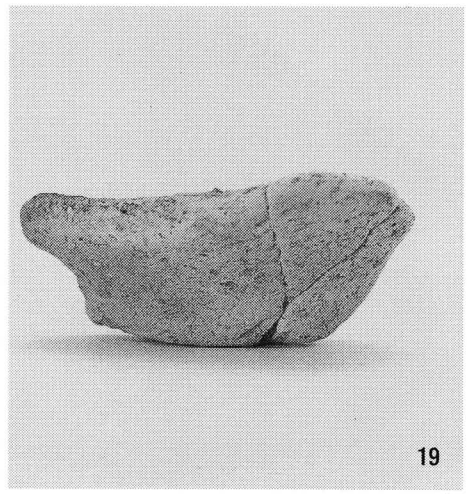
図版5　出土遺物（竪穴住居跡・包含層）

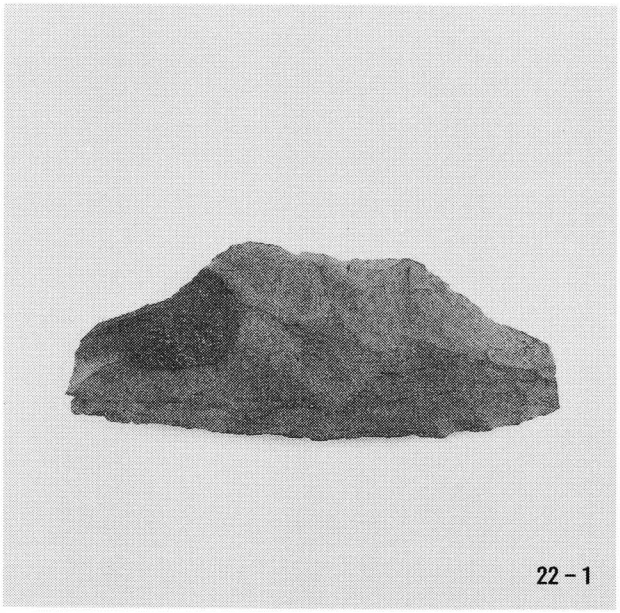

20

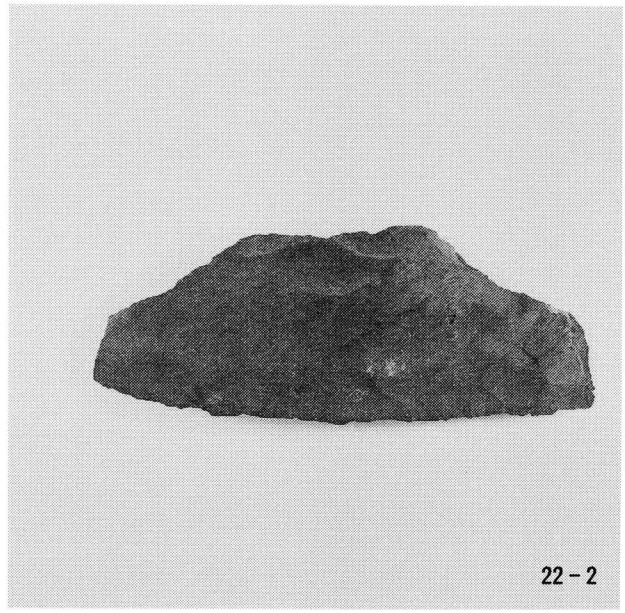

21


17


18


19


22－1


22－2

報告書抄録

ふりがな	しまもとちょうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	島本町文化財調査報告書
副書名	御所ノ平遺跡範囲確認調査概要報告
巻次	
シリーズ名	島本町文化財調査報告書
シリーズ番号	第4集
編著者名	野口尚志　久保直子　坂根　瞬
編集機関	島本町教育委員会事務局　社会教育課
所在地	〒618-8570　大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号　TEL 075-961-5151
発行年月日	平成15年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
御所ノ平遺跡（ごしょだいら いせき）	島本町東大寺二丁目（しまもとちょうとうだいじ ちょうめ）467番地	27301	22	34°53′27″	135°40′09″	2003.1.8 ～ 2003.2.7	90	遺跡範囲確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御所ノ平遺跡	集落	奈良時代	竪穴住居跡、落ち込み状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、石器、瓦　他	

島本町文化財調査報告書
第4集

発　行　島本町教育委員会
〒618－8570　大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号
TEL 075－961－5151
発行日　平成15年3月31日
印　刷　野田印刷有限会社
〒618－0013　大阪府三島郡島本町江川二丁目1番16号
TEL 075－961－6460